



海辺の危険度マップ

“溺れ”につながる危険な場所はどこまで？

海の活動でいちばん避けなくてはいけない事態が“溺れ”です。

海の中にいるから溺れるのだと考えがちですが、たとえ海に入っていなくても落ちてしまったらそこは海です。

ここでは海辺の活動で危険度の高い場所から順に、赤、黄、緑の3つのゾーンに分けてみました。活動の際は黄色ゾーンの危険度を正しく理解し、計画をすることが大切です。

	緑色ゾーン(陸)	黄色ゾーン(水際)	赤色ゾーン(水中)
砂浜	直接水に入る可能性がないので溺れない場所。	海面と隣り合っているので落ちる危険が潜む場所。	すぐ溺れに繋がる場所。
岩場		波が押し寄せてくるかも	波にまかれる・漂流する
港		波にまかれる・取り残される	漂流する
サンゴ礁海岸		消波ブロックの中や海面に落ちる 流される・取り残される	波にまかれる



危険な海辺の生き物

これらの生物は不注意に捕まえたり、刺激すると怪我や事故に繋がります。海の生物についてよく調べ理解することでトラブルを避けられるようにしましょう。

■捕まると「咬む・刺す」



イモガイの仲間 肉食性の巻貝。吻から“毒もり”を発射する種類がいる。持ち歩いているときに刺されることがある。



ヒヨウモンダコ 小型の美しいタコ。興奮するとコバルトブルーの斑紋が輝く。咬毒を持ち、捕まると被害にあう。

■捕まると「はさまる」



ワタリガニの仲間 オールのような遊泳脚をもつ泳ぎ上手なカニ。はさみの可動範囲がひろく、動きがすばやいので、つかまえるとはさまれる。



サメの仲間 波打ち際では危険性は低い。一方、サンゴ礁の外洋では、イタチザメなど危険な種が出没するので近づかない。

■刺激すると「あそわれる」



フジツボ 群生するフジツボの殻のふちは硬く鋭い。イワガキやカンザシゴカイなど他の付着生物も同様。



ガニガゼ 長く黒いトゲをもつウニ、長いトゲはもろくて折れやすく、刺さると破片が皮膚の中に残る。強い毒がある。



ハオコゼ 潮がひいた磯の海藻の中にいる小さなカサゴの仲間。底でじっとしている。背びれに強い毒のあるトゲをもつ。



ゴンズイ 8本のひげでナマズ体型。ゴンズイ玉と呼ばれる群れを作る。背びれの1番目と胸びれに毒のあるトゲをもつ。



アカエイ 尾びれの付け根に有毒のトゲをもつ。普段は砂底でじっとしているが、気づかず足でふむと、怒って刺す。



シロガヤ 岩に群生する海藻のような刺胞動物。触ると刺胞の攻撃をうける。黄や黒のハネガヤの仲間もあり、どれも有毒。



アンドンクラゲ 夏の終わりに海水浴場で見かける小型のクラゲ。透明なので、気づきにくい。触手に触ると刺される。



ハブクラゲ サンゴ礁海岸で見られる。日没日出時に活動し、波打ち際を群れで漂う。被害は7・8月に集中。刺胞毒は強力。



カツオノエボシ 傘が浮き袋になり、風に運ばれ海岸による。長い触手全体に刺胞があり、毒は強力。死骸にも注意。

症状

刺さると跡が付き、周囲に紫斑ができる。強い灼熱痛。手足の痺れから全身麻痺、意識不明となり死亡する場合もある。

かまれると、口の渇き、嘔吐、運動失調、衰弱、呼吸困難、けいれん、意識不明のあと死亡する場合もある。

応急処置

かまれたり刺されたりした場所を少し切開して毒を出し、タオルなどを巻いて圧迫。安静にして、至急病院に搬送。

症状

はさまは、長く、鋭く、力強い。はさまられると非常に痛いが大きな傷になることはない。カニを海水につけると、はなして逃げていく。

症状

血の臭いに刺激されやってくる。出血を伴う怪我や生理のときは、危険なので海に入らないほうがいい。

応急処置

歯が鋭く傷が深くなる。タオルなどで患部を圧迫止血し、病院へ運ぶ。

症状

素足で踏んだり、ぶつけると、皮膚を切り裂き深い傷を負う。傷口に砂や破片が入ると怪我が悪化する。

応急処置

真水で傷口をよく洗浄し、傷口をぱんそうこう等で処置する。

刺傷は赤く腫れ、しびれるような疼痛が続く。重症の場合は手足の筋肉の麻痺、呼吸困難を起こすこともある。

40~50度のお湯で、刺されたところを60~90分、痛みがなくなるまで気長に浸す。もしくはすぐに病院へ運んで手当を受ける。

刺されると一瞬、痛みがはしり、それから疼痛が2~3時間続く。赤く腫れ、発熱することがある。

釣って手でつかみ、刺されことが多い。刺されるとすぐに疼痛が起り、激しい痛みが徐々に広がる。痛みは2日ほど続く。

刺さると深い傷となり、毒による激痛が走る。傷口は赤紫色に腫れ、血圧降下、下痢、発汗などの全身症状がでることもある。

患部はなるべく擦ったり搔いたりしないようにする。食用酢などがあれば患部にたっぷりかけ、残った触手をタオルなどで丁寧に取り除く。真水で洗浄すると毒をさらに注入される危険性があるので使用しないこと。

処置が済んだらすぐに病院に行き治療する。

刺されると激痛がはしりミミズ腫れになる。患部は水ぶくれになり、やがて壊死を起こす。重症の場合は死にいたる。

海水で良く洗い流す。他のクラゲと違い酢は逆効果なので使用しないこと。ひどい場合は病院に行く。